

文学部の教育課程編成・実施の方針（Curriculum Policy ; CP）

文学部（英語英米文学科（※）、日本文学科、国際文化学科、現代社会学科）は、本学部のDPを踏まえ、次のような方針で教育課程を編成・実施する。

＜大学（学士課程）共通＞

（CP1） 大学共通DPおよび各学科固有DPの各項目の達成、及び学生の自発的かつ能動的な学習の徹底を図るため、各学科の教育課程において8単位以上必修の演習科目を置き、卒業論文（またはこれに代わるもの）の作成を必修とする。

＜全学共通科目（成蹊教養カリキュラム）＞

（CP2） 大学共通DPの各項目を達成するために、全学共通科目（成蹊教養カリキュラム）を策定する。カリキュラムとDPの各項目との関係はカリキュラムマップ（付表）によって示す。

（CP2-1） 円滑な高大接続と（DP4）を達成するため、学部1年次前期をプレ・タームとし、学びの動機づけを目的とした科目を配置する。

（CP2-2） （DP4）の確実な達成を目指して、成蹊教養カリキュラム及び各学科のカリキュラムに留学、インターンシップ、ボランティア等の単位認定のしくみを設け、さらに成蹊国際コース等の選抜型の教育プログラムを設置する。

＜文学部＞

（CP3） 本学部の教育が目標とする文化現象の総合的理解とその継承に向け、各学科の理念と、基礎となる教養の考え方にに基づきながら、人間・歴史・社会・文化の多様なあり方を研究するための授業科目を体系的に配置する。

（CP4） 専門知識、教養および学際分野をバランスよく学修することができるように、教育課程の中に学科専門科目、成蹊教養カリキュラム（全学共通科目）、自由設計科目の3つの区分を明示し、それぞれから単位修得を行うことを基本とする。

（CP5） 「学士の学位授与の方針」に各学科が掲げている項目を総合的に修得することができるようにするために、1年次から4年次までのすべての学年に少人数による演習科目を設け、また4年次に卒業論文の提出を義務づける。

（※） 2019年4月より英米文学科から英語英米文学科に名称変更